

三者協働でこれからの授業を  
設計してみよう  
～コロナ禍での経験を踏まえて～

G班	氏名
久保	まな
花房	優奈
與田	祐大
中島	郷



## 本当のコミュニケーション学 ～知っているつもりのあなたへ～



(1) 授業種別	演習（ワーク後にフィードバック）
(2) 授業概要	<p>私たちの日常生活において欠かせないのが「コミュニケーション」です。</p> <p>コミュニケーションにおいて苦手意識を克服したい...コミュニケーションを本質的に理解したい</p> <p>...</p> <p>と考えるあなたへ問います。「コミュニケーション」とは一体何でしょうか。</p> <p>誰に対しても難なく意思疎通することでしょうか。</p> <p>学生同士の連携を通じて、多面的に「コミュニケーション」を学ぶことにより、理解にとどまらず、日常での発揮、発信を目的とします。</p> <p>終始参加意欲のある学生への受講を推奨します。</p>



<p>(3) 学位授与方針との関係 (プログラムポリシー)</p>	<p>① (知識・技能) 学士課程教育の基盤となる幅広い学問的および社会的知識と技能を身に付けることができる。</p> <p>② (思考力・判断力・表現力等の能力) 学部横断型教育プログラムの特徴を活かし、違う視点を持った学生同士が協働的に学ぶことで、「考動力 (自律力、人間力、社会力、国際力、革新力)」を身に付けることができる。</p> <p>③ (主体的な態度) 自らの学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組むことができる。</p>
<p>(4) 到達目標</p>	<p>① (知識・技能) ・コミュニケーションの多面性を理解する ・対面、非対面のコミュニケーションの相違、一致点を理解する</p> <p>② (思考力・判断力・表現力の能力) ・コミュニケーションの多面性を体感・経験する ・グループで協同して学ぶための能力を身につける</p> <p>③ (主体的な態度) ・他の科目や日常生活で応用・発揮・活かすことができる ・自分の中の知識や理解にとどめず、他の学生に発信する</p>
<p>(5) 授業手法</p>	<p>① 教員による資料等を用いた説明や課題等へのフィードバック ② 学生による学習のふりかえり ③ 学生同士の意見交換 (グループ・ペアワーク、ディスカッション、ディベート等含む) ④ プレゼンテーション (スピーチ、模擬授業等含む) ⑤ 課題探究 (プロジェクト学習、課題解決型学習、ケーススタディ等含む) ⑥ フィールドワーク ⑦ その他 (グループワーク、フィードバック、ミニ講義)</p>

(6) 授業計画	<ol style="list-style-type: none"><li>1 ガイダンス ワークを通してこの後の授業により興味もってもらおう</li><li>2 話す・聞くは分かってる人多いので③以降につなげる</li><li>3 ③のワーク</li><li>4 ③のワーク</li><li>5 ③について講義（それぞれが情報発信する・意見共有の場）</li><li>6 ④のワーク</li><li>7 ④のワーク</li><li>8 ④について講義（それぞれが情報発信する・意見共有の場）</li><li>9 ⑤非対面と振り返り</li><li>10 ⑤対面</li><li>11 ⑤について講義（それぞれが情報発信する・意見共有の場）</li><li>12 半分今までの振り返り、発表準備</li><li>13 発表準備</li><li>14 発表</li><li>15 発表振り返り</li></ol>
(7) 授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"><li>・その日の授業感想やまとめの提出（グーグルドキュメントやteams）→共有物を読む</li><li>・週をまたいでグループワークの場合、コラボレーションコモンズ（図書館）やグループで集まるorZOOM等での作業</li></ul>

(8) 方法	①小レポート（毎回の振り返り+講義のまとめ） 30 ②グループワーク（グループ内での評価、先生やLAからの評価） 40 ③プレゼンテーション 30
(9) 基準・評価	小レポート：毎授業の理解を確認 グループワーク：グループワークへの貢献・参加度 グループ内での評価+先生やLAからの評価 プレゼンテーション：他グループからの評価+先生やLAからの評価、自分の発表だけでなく、他の発表を聞く姿勢等も加味
(10) フィードバックの方法	LAの活用+先生からグループワーク後の講評+感想・意見の共有（受講生からのフィードバック）



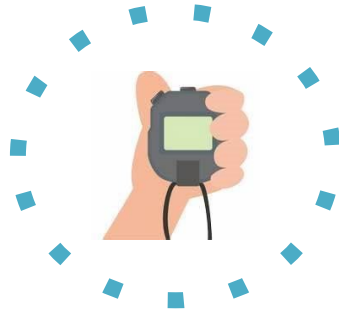
<p>(11) 参考図書</p>	<p>現時点では考えていない</p>
<p>(12) 授業外でのオンライン場での、 意見交換スペース</p>	<p>グーグルドキュメント、Padlet、Teams、Dropbox, etc…</p>



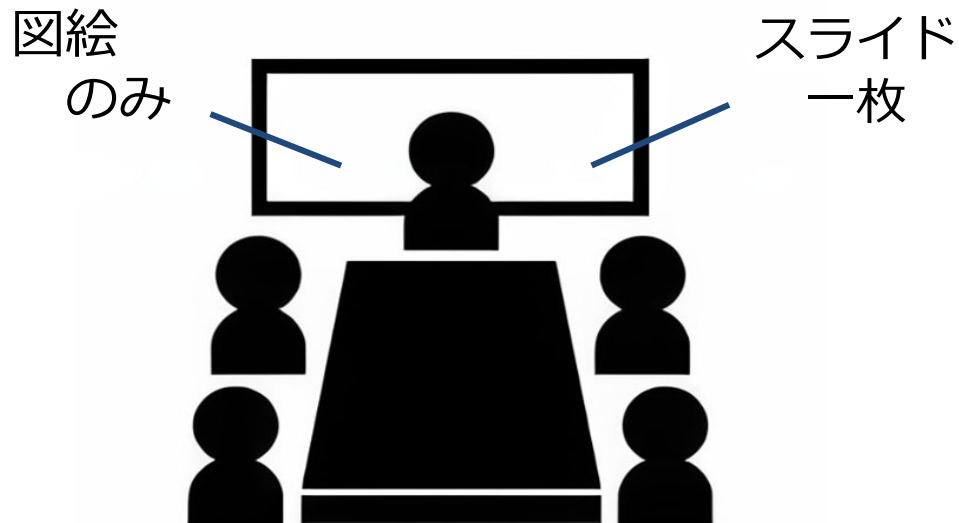
時配	学習内容と活動	授業中の留意点・評価
導入 (9回目)	これまでのワークを非対面（ZOOM等）で行うことによって、非対面コミュニケーションの伝わりづらさ（良し悪し）を体感する。	グループワークの役割分担 (グループ内の全員が偏りなく経験する)
展開 (10回目)	伝わりづらさにも種類があるので、2種類のワークを通して異なる伝わりづらさ（表現の仕方や知識量・考え方が異なることによる）を体感する。	同上
まとめ (11回目)	上記のワークを通して体感したことを共有し、それらも踏まえながら、コミュニケーションにおける伝わりづらさとはどのような事かを理解する。 ※有効なコミュニケーション方法については、12回目に取り扱う。	同上







## ① 「伝わる」 自己紹介



予想



正解

誤解

「伝わりづらさ」  
&  
フィードバック



## ② 情報分断ワーク

